



電子書籍の教育・研究活用の可能性

21世紀の大学がめざす教育・研究と書籍の未来

菊池 重雄

アウトライン

2

- ▶ 研究・教育を取り巻く環境の変化
 - ▶ 研究スタイルの変化
 - ▶ 教育スタイルの変化
 - ▶ 授業スタイルの変化
 - ▶ 学習から学修へ
 - ▶ 学修空間の創造
- ▶ 21世紀における教育と電子書籍
 - ▶ 電子書籍（電子教科書）の活用
 - ▶ 電子書籍の立ち位置
 - ▶ 電子書籍の活用可能性

キーワード

- 学修
- コンピテンシー
- 主体的学修
- アクティブ・ラーニング
- 学修空間
- 電子書籍の活用方法
- 検索能力
- Wiki能力
- ソーシャル・リーディング能力
- 読者イコール著者

研究・教育を取り巻く環境の変化

何がどのように変わったか？

研究スタイルの変化

4

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 人文・社会科学分野における研究スタイルの変化
 - ▶ ノート、原稿用紙、タイプライター、研究書、辞書、筆記用具、手紙、電話
 - ▶ ワープロ⇔コンピュータ、研究書、辞書、手紙、電話
 - ▶ コンピュータ（インターネット）、研究書（PDFファイルを含む）、電子辞書、電話
 - ▶ コンピュータ（モニター2台）、タブレット端末、スマートフォン、研究書（一般書籍＋電子書籍）、Skype

教育スタイルの変化

5

玉川大学 菊池重雄

▶ 人文・社会科学分野における授業スタイルの変化

- ▶ 講義ノート（B6判情報カード等の組み合わせ）、教科書、配布資料、ホワイトボード・黒板（体系的な板書）
- ▶ コンピュータ（MSパワーポイント）、教科書、配布資料、確認のための講義ノート
 - ▶ Lotus “*LearningSpace*” によるディスタンス・ラーニング
- ▶ アクティブ・ラーニングを中心とする双方向型授業
 - ▶ Blackboard による e-Learning（講義ノート・参考資料の事前配信）
 - ▶ 電子書籍（電子教科書）

授業スタイル（100分授業）

6

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 12:50 教室へ：授業前確認
- ▶ 13:00 本日の授業について（スケジュール、キーワード、Bb資料等）
- ▶ 13:05 短い講義（PPT/YouTube/Kinoppy等）
- ▶ 13:20 グループワーク①
 - ▶ 学生個人による言語化作業（Kinoppy）⇔グループワーク等⇔発表
 - ▶ 発表内容へのコメント
- ▶ 13:45 短い講義（PPT/YouTube/Kinoppy等）
- ▶ 14:00 グループワーク②
- ▶ 14:25 まとめの講義
- ▶ 14:35 ミニツツペーパーの作成

注：
PPT=PowerPoint
Bb=Blackboard

授業スタイル：課題例

7

玉川大学 菊池重雄

▶ 課題例

- ▶ 「（最初の）自分の考え」が、発表および発表後の教員のコメントに至るまでのプロセスの中で（ペアワーク⇔グループワーク⇔発表⇔教員によるコメント）、どのように変化したかを報告しなさい。
- ▶ 授業担当者の講義ノート（A4用紙 約半ページ分）を2ページ分に増補しなさい。
- ▶ Kinoppyでマークした文章を5点列挙し、それぞれが重要であるとする根拠を示しなさい。
- ▶ 指定された Kinoppy のテキストの一部を、指示にしたがって書き改めなさい。
- ▶ 授業で提示されたキーワードの中から任意にひとつを選び、以下を行いなさい。
 - ▶ そのキーワードが使われている（テキストの）文章を数点例示しなさい。少なくとも3点は例示すること。
 - ▶ そのキーワードを含む200字程度の文章を作成しなさい。そのさいに、例示した文章のコンテキストを念頭に入れた文章を作成すること。

課題 A : Kinoppyテキストの下記の箇所を4倍の分量に改編しなさい

- ▶ どの産業においても大量生産にはベルトコンベアーによる流れ作業が、今日では当たり前になっているが、この流れ作業を最初に効果的に導入したのがヘンリー・フォードの自動車工場だった。能率、生産性向上の専門家フレデリック・テイラーの理論を実践したものであり、このテイラー・システムによって20年代アメリカの製造業の生産性は急激に上昇し、労働者人口はほとんど増えなかったが生産量は二倍に増加した。（有賀夏紀『アメリカの20世紀〈上〉』）

課題 B : Kinoppyテキストの下記の部分に続けて、フォード経営を批判する文章を300字以上400字以内で記述しなさい。

- ▶ フォードは、利益を上げるためには、自動車の価格を下げることで労働者に高賃金を支払うことが必要であると考えた。自動車の価格はフォード・モデルTの大量生産により、1925年には285ドルにまで下げることができたが、これは、当時平均年収1200ドルの労働者や2000ドルのホワイトカラーが買える値段であった。1921年から25年までに売れた新車の半分はモデルTだったという。フォードは労働者の賃金を世界最高の水準に引き上げることで、労働力の供給を安定させた。流れ作業は生産性を高めたが、～（上掲書）

大学教育の世界的変化

9

玉川大学 菊池重雄

▶ 大学

- ▶ 博士課程

- ▶ 修士課程

- ▶ 学士課程：大学1年生～大学4年生

▶ 学士課程教育の世界的変化

- ▶ 履修主義から**修得主義**へ

 - ▶ 履修主義⇨多くの科目（単位）を履修し、知識量を増やす

 - ▶ **修得主義**⇨生きていくうえで必要なコンピテンシー（competency = 社会で働き続けるうえで必要な能力）を修得する

- ▶ これまでの大学教育の見直し

学習（学修）スタイルの変化

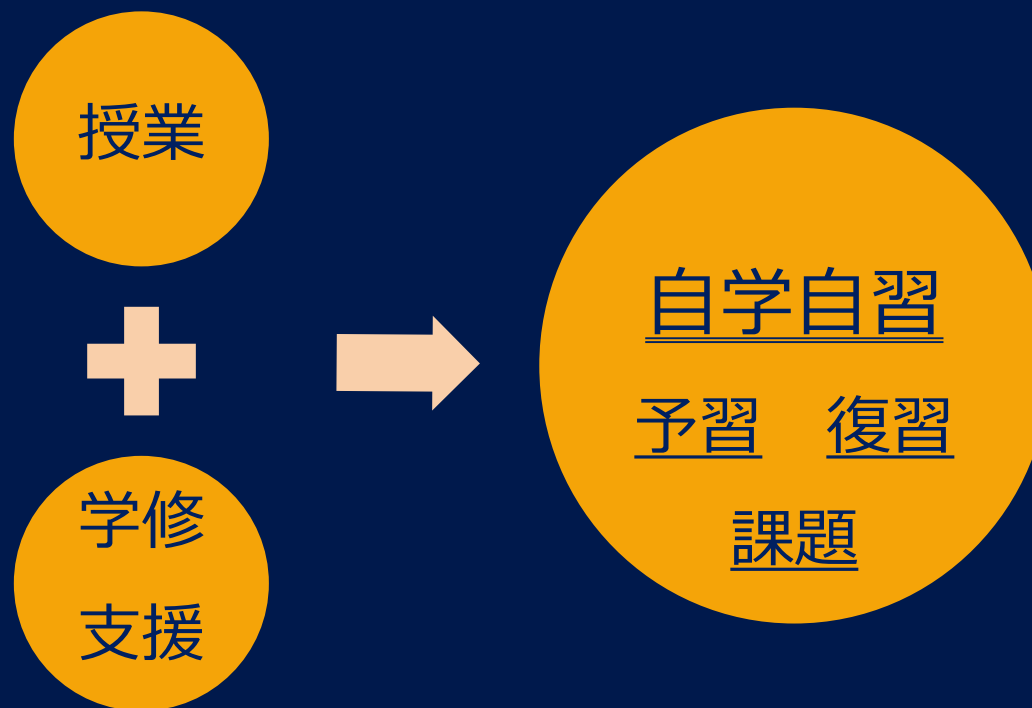
- ▶ 学習から学修へ：履修主義から修得主義へ
 - ▶ 学習：与えられる学び（小学校～高等学校における学び）
 - ▶ 学修：自分から主体的・能動的に取り組む学び（大学における学び）
 - ▶ 「人間は何事も人に教えることはできない。できるのは、自分でそれを発見するのを手助けすることだけだ（ガリレオ・ガリレイ）」
⇒ 自ら学ぼうとしない人に教えることはできない
 - ▶ 学習から学修へ⇒ 自学自習の学び
 - ▶ 自学自習で学ばせる教科書、参考図書の選択

自学自習を中心とした授業設計

11

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 自学自習を補うための授業設計
 - ▶ 授業のための宿題ではなく、宿題を支援するための授業

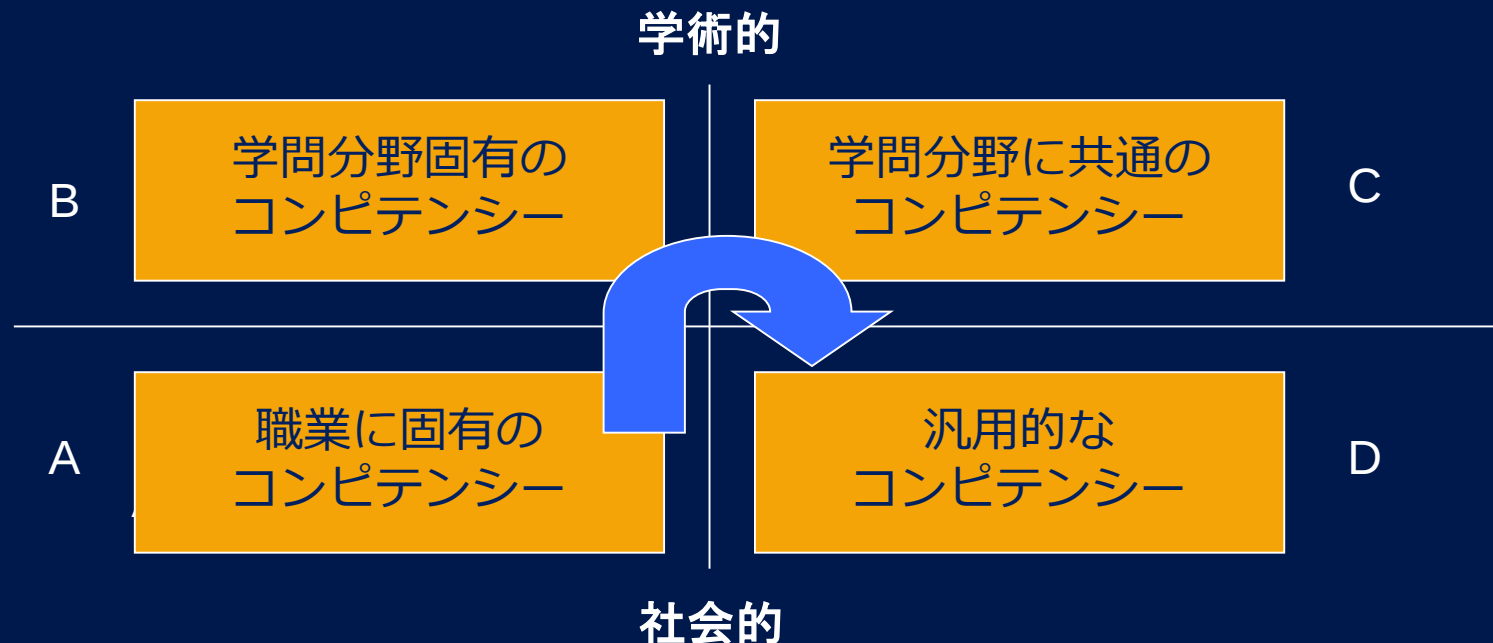


学士課程教育で育成するコンピテンシー

12

玉川大学 菊池重雄

- ▶ コンピテンシー／コンピテンス（高次汎用能力）
 - ▶ ある職務を遂行するために最低限必要な能力要件（Word / 川嶋 1998）



(Barnett / 川嶋 2008) を改編

学生の「主体的学び」を求める時代と社会

13

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 学問の高度化
- ▶ 高等教育の在り方に影響を与える社会変化
 - ▶ 産業構造の変化
 - ▶ グローバリゼーションの進展
 - ▶ テクノロジーの革新
 - ▶ 人口動態の変化（年齢、収入、教育レベル、就業状況、居住地域等）



- ▶ 予想困難な時代を生き抜くのに必要な主体的学びの実現

Ogilvy による21世紀の教育のシナリオ①

Jay Ogilvy (ジェイ・オグルヴィ)

14

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 現代の不平等：教育の不平等
 - ▶ 開発途上国における貧困層の教育
 - ▶ 情報経済時代のなかの先進国における貧困層の教育
 - ▶ 学歴格差
 - ▶ デジタル・ディバイド
- ▶ 公立学校制度における農業領域と工業領域
 - ▶ 夏季休暇の伝統
 - ▶ フォーディズム（1教室学校の改善）の影響

Ogilvy による21世紀の教育のシナリオ②

15

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 「精密な農業（precision farming）」のアナロジーとしての「精密な学校教育」
 - ▶ 旧パラダイム
 - ▶ 各要素の標準化、画一的な配分を行う大量生産設備の活用
 - ▶ 新パラダイム
 - ▶ 各装置のサイトの個別化と混合すべき要素の最適化
- ▶ Ogilvyの問い
 - ▶ 個別の道具ごとに、農業の最適化テクノロジーを応用できるならば、なぜ、個別の生徒ごとに学校教育を最適化するテクノロジーが使えないのか？

Ogilvy による21世紀の教育のシナリオ③

16

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 脱フォード・パラダイム
- ▶ インプットの測定からアウトプットの測定へ
 - ▶ 何を用意したかではなく、何ができるようになったかを測定
- ▶ アウトプットの測定の問題点
- ▶ アウトプットの測定を生かすためのプランニングとモニタリング
- ▶ 「精密な農業」のアナロジーの限界と可能性
- ▶ 教育における公正とは何か

大学における教育方法の変化

17

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 講義中心主義からの脱却＝教員中心主義からの脱却
- ▶ 学生を中心とした教育の実現
 - ▶ アクティブ・ラーニングへの転換
 - ▶ アクティブ・ラーニング：学修者の能動的な学修への参加を基本とする学修方法の総称（ペアワーク、ミラーリング、グループワーク、ディスカッション、ディベート等に加え、学内外の発見学修、問題解決学修、体験学修、調査学修なども含む）
 - ▶ 協同学修（cooperative learning）と協調学修（collaborative learning）
 - ▶ 協同学修：学生が自分自身の学びと学修仲間の学びを最大限にするために学び合う学修方法（Smith 1996）⇨教員は、課題を共同で遂行する学生の助言者
 - ▶ 協調学修：知識の創造に向けて学生と学生、学生と教員が共に学び合う学修方法（Matthews 1996）⇨教員は学生と共に新しい知識を探究する共同体の一員

学修させる空間の創造

18

玉川大学 菊池重雄

▶ 学生はどこでどのように学修するのか？

▶ 学修する空間の特徴

- ▶ すぐに適応、順応しやすい場所
- ▶ 自分のやり方が貫ける場所
- ▶ 人間工学的に考慮されている物が備わっている場所
- ▶ 実用的なテクノロジー（快適なネット環境）

} 他者との協力

▶ 理想の学修空間を創るのは誰か？ ⇨ 学生自身

- ▶ Mobile/Iconic/Comfortable/Dynamic/
Writable/Playful/Collaborative/Ergonomic

} 学生自らが
選択

受講に備えて：個人の学修空間から教室へ

19

玉川大学 菊池重雄



玉川大学
教育学術情報図書館

教室での学修：アクティブ・ラーニング (他者とともに学ぶ)

20

玉川大学 菊池重雄



教室での学びをラーニング・コモンズで深める

21

玉川大学 菊池重雄



学修支援の新しいかたち

22

玉川大学 菊池重雄



大学の義務・学生の義務

23

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 学生に必要な一日の学修時間⇔8時間



ラウンドテーブル

ワークショップ

ダイナー型ラーニングスペース

学修サポート

スチューデントラウンジ

**1日8時間大学で過ごす
快適に学べる空間がここにある**

主体的に学ぶ 大学設置基準に求められている自学自習の時間をしっかり確保します

大学教育棟 2014

カフェ・レストラン

カンファレンスルーム

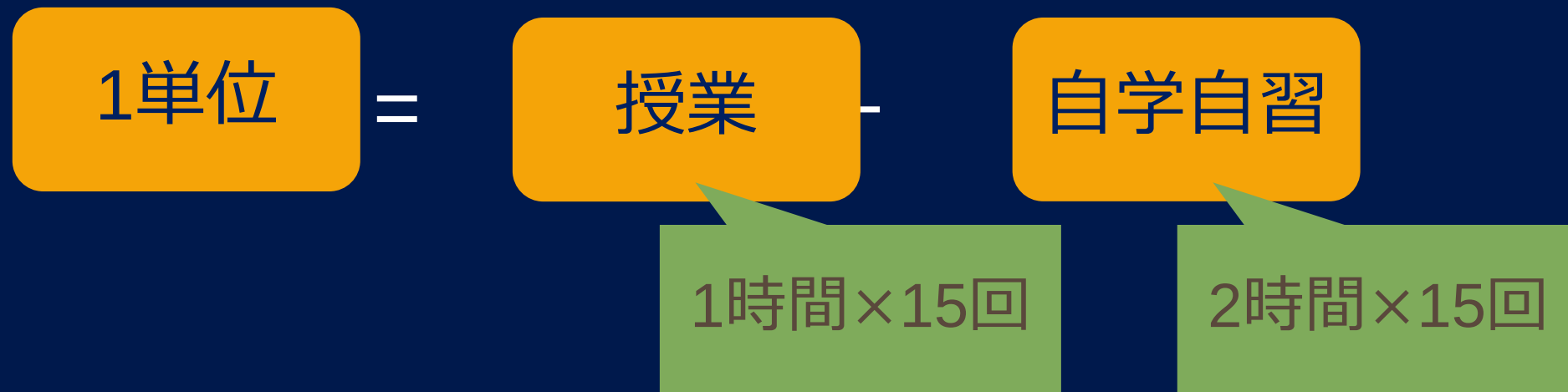
リーディングルーム小室

大学における学修時間の定義

24

玉川大学 菊池重雄

▶ 大学設置基準の定める学修時間



半期（セメスター）16単位 ⇔ 1日8時間（授業＋自学自習）

大学における学修（平均8時間）のかたち

25

玉川大学 菊池重雄

	火曜日	水曜日
9:00-10:50	授業 “English (ELF 101) ”	「比較文化論」の予習
11:00-13:00	“English (ELF) ”の復習・課題 —TA等による指導	授業「経営学」
13:00-14:00	昼休み	昼休み
14:00-15:00	「一年次セミナー101」の予習	「比較文化論」の予習
15:00-16:50	授業「一年次セミナー101」	「一年次セミナー101」の復習・課題
17:00-19:00	「経営学」の予習	クラブ活動

学修時間：9時間

学修時間：7時間

21世紀における教育と電子書籍

電子書籍の可能性と有効性

電子書籍（電子教科書）の活用

27

玉川大学 菊池重雄

▶ 学生は「いつ」「どこで」学修しているか？

▶ 学生は「いつ」「どこで」本を読んでいるか

▶ 大学 Type A / Type B

▶ 自宅 Type A / Type B

▶ 車中（電車、バス） Type A

▶ カフェ Type A / Type B

▶ アルバイトの休み時間 Type A

いつでも、どこでも

Type A : タブレットもしくはスマートフォンで読む

学修・研究における 電子書籍の有効な活用方法 (Type B)

28

玉川大学 菊池重雄

- ▶ コンピュータの拡張表示（モニター2台）
 - ▶ Kinoppy 使用の電子書籍画面（精読用）
 - ▶ 執筆画面
- ▶ タブレット
 - ▶ Kinoppy 使用の電子書籍画面（速読・スクロール・付箋およびマーク確認用）
- ▶ スマートフォン
 - ▶ 電子辞書として



電子書籍の立ち位置

～時代の文化としての電子書籍

29

玉川大学 菊池重雄

▶ 音楽媒体の変化と電子書籍

▶ 19世紀のヒットチャート

▶ 楽譜の売り上げ（個人による演奏）

▶ 蝋管からSPへ（短い楽曲を聴く）

▶ LPの時代（片面20～30分の楽曲を聴く）

▶ カセット・テープへの録音

▶ CDの時代（長時間の楽曲を聴く）

▶ ダウンロードとストリーミングの時代

オーディオブックの登場

電子書籍の登場

電子書籍の立ち位置

～ダウンロードとストリーミングの時代

30

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 薄れる所有意識⇔聴き手の二分化
 - ▶ 一般の受容者（聴ければよい）／高度な受容者（良い音で聴きたい）
- ▶ 聴き手に求められる能力
 - ▶ これまで
 - ▶ 紹介された楽曲・評判の楽曲をCDショップで購入する
 - ▶ CDショップで閲覧して購入する（楽曲・パッケージソフトとしての魅力）
 - ▶ これから
 - ▶ “For You” や “New” で紹介された楽曲・評判の楽曲を聴く
 - ▶ 自ら検索して聴く⇔検索する能力の重要性
 - ▶ 検索の不備を補うものとしてのAIとSNSによるリコmend機能

電子図書の
読み手にも
求められる
検索能力

電子書籍のこれからの活用可能性①

31

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 学生（読者）の検索能力の育成
 - ▶ キーワードを意識しながらの受講
 - ▶ 授業中および授業終了時におけるキーワードの整理
 - ▶ 教員による詳細な参考文献表の提示
- ▶ 学生（読者）のwiki能力の育成
 - ▶ シンプルな講義ノート配布⇨学生による内容追加・編集
⇨自分用テキストの完成
- ▶ 学生（読者）のソーシャル・リーディング能力の育成
 - ▶ SNS等のリーディング・コミュニティ（評論コミュニティ）への参加
 - ▶ アンダーラインの共有

読者 = 著者
(境界線の喪失)

電子書籍のこれからの活用可能性②

32

玉川大学 菊池重雄

▶ カレン・ジョイ・ファウラー『ジェイン・オースティンの読書会』

Karen Joy Fowler, *"The Jane Austen Book Club "* (2004)

▶ 「私たちはそれぞれ、自分だけのオースティンをもっている。」

▶ 『エマ』に対する家族や友人のコメント

- ▶ MPより楽しめると思った。でもP&Pほどはおもしろくない。レディ・キャサリンやミスター・コリンズに匹敵するキャラクターがない。(母)
- ▶ P&Pよりよい。でもMPほどはよくない。(カサンドラ)
- ▶ ほかの三冊ほど好きではなかった。ほかの三冊と言葉遣いが違う。やや読みにくい。(ジェームズ・オースティン夫妻)
- ▶ 非常に気に入った。P&Pのほうがウィットがあるかもしれないし、MPのほうが道徳性が高いけれども、すべてを考え合わせると、全編に流れる独特な自然の雰囲気ので、両者より『エマ』のほうがよい。(フランシス・ウィリアム・オースティン)

※上記はすべて白水社より2006年に刊行された矢倉尚子訳の同書より引用・参照



電子書籍のこれからの活用可能性③

33

玉川大学 菊池重雄

▶ フランク・ローズ『のめり込ませる技術—誰が物語を操るのか』

Frank Rose, *"The Art of Immersion: How the digital generation is remaking Hollywood, Madison Avenue, and the way we tell stories"* (2011)

- ▶ 結局“物語”とは何だろう？ 人類学者は“物語”そして“物語するという行為”は人間という存在の核だという。例外なく人類のすべての文化で同じように機能する“物語”という行為は“話者”と“聞き手”という共生関係によって成立する。それこそが、誰もが乳児期から獲得を始める“対話”という基本動作だ。脳は顔や形や花といった自然界のあらゆる事象に視覚的なパターンを見出す。音声に関しても同じだ。同様に、“情報”に関してもパターンを見出す。“物語”とは認識可能なパターンであり、そのパターンの中に私たちは“意味”を見出す。物語によって世界を理解し、理解したことを物語によって共有する。それは雑音に満ちた現実という世界の中に聞こえるメッセージなのだ。
- ▶ 『ロスト（ABC放送 2004～2010）』は、複雑に入り組んだ内容を視聴者がインターネットを通じて解読するムーブメントを引き起こす。
- ▶ 『ドクター・フー（BBC放送 2010）』は、第13話のテレビ用エピソードの後、最後の4話をインターネットでダウンロードするゲームとして発売。



※上記はすべてフィルムアート社より2012年に刊行された島内哲朗訳の同書より引用・参照

電子書籍のこれからの活用可能性④

34

玉川大学 菊池重雄

▶ 常時接続人間の登場

- ▶ 中世（神のもとに人間がつながれていた社会）⇨近代（人間が自らの足で立ち、形成した社会：個を重視する社会）⇨新しい時代（人間が再びつながりを希望する社会）

- ▶ 中世⇨**グーテンベルクの活版印刷技術**⇨近代⇨**インターネット**⇨新しい時代

- ▶ 中世⇨宗教改革：**各国語訳聖書の誕生**⇨近代⇨**世界共通語としての英語**⇨新しい時代

▶ ストリーミングの驚異（脅威？）

▶ 出版社・書店の2機能

- ▶ Kinoppy Unlimited
- ▶ パッケージソフトとしての書籍の制作・販売



サイモン・ラトル
『シューマン交響曲全集』
BPO Recordings

電子書籍のこれからの活用可能性⑤

35

玉川大学 菊池重雄

▶ 紙の書籍・電子書籍を問わない言語情報の媒体としての普遍性

▶ 言葉はどのように伝えられてきたか？

〈福音記者マタイと福音記者ルカ、それぞれの解釈⇔マルコ資料・Q資料⇔イエスの言葉〉

▶ 近代以前：一般民衆⇔聖職者による説教（解釈）⇔イエスの言葉

▶ 近代以降：宗教改革⇔各国語聖書の誕生⇔一般民衆⇔イエスの言葉

▶ 読むという行為の重要性

▶ 「読む」という行為をとおして「解釈（理解）」する行為が生まれ、「決断」という創造的行為が生じる。

▶ 「読む（読者）」＝「書く・語る（著者）」（読むことは話すこと、話すことは読むこと）

▶ （新しい時代の）「読む」という行為を促進する媒体としての電子書籍

〈マタイによる福音書18:12-14〉

- ▶ あなたがたはどうか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜ぶであろう。そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではない。

〈ルカによる福音書15:4-7〉

- ▶ あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、「わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから」と言うであろう。よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔い改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きい喜びが、天にあるであろう。

レイ・ブラッドベリ『華氏451度』の予測する世界

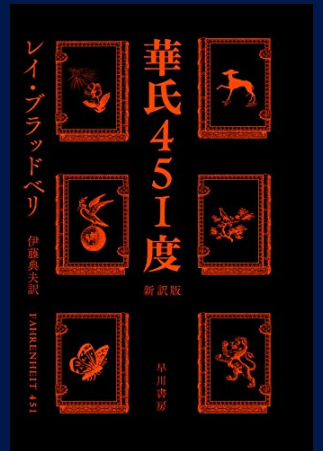
37

▶ レイ・ブラッドベリ『華氏451度』

Ray Bradbury (1920～2012) “*Fahrenheit 451*”

- ▶ きみに必要なのは本ではない。かつて本のなかにあったものだ。
- ▶ こうした書物がなぜ重要なのか、おわかりかな？ それは本質が秘められているからだ。
- ▶ われわれは書籍焼却人でもある。われわれは本を読んだら燃やしてしまうんだ。見つかる困るのでね。(中略) ならばこの老いぼれ頭に置いておくほうがいい。誰にも見られないし、気づかれることもない。われわれは、歴史や文学や国際法の断片、バイロンやトマス・ペイン、マキャベリ、はたまたキリストの断片の寄せ集めなんだ。それがここにある。
- ▶ 「本を表紙で判断してはいかんぞ」と誰かがいった。

玉川大学 菊池重雄



※上記はすべて早川書房より2014年に刊行された伊藤典夫訳の同書（新訳版）より引用・参照

21世紀は書籍を必要とし、これまで以上に 書籍にかかわることを必要とする時代

38

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 「この世をふかく、ゆたかに生きたい。そんな望みをもつ人になりかわって、才覚に恵まれた人が鮮やかな文や鋭いことばを駆使して、ほんとうの現実を開示してみせる。それが文学のはたらきである。／だがこの目に見える現実だけが現実であると思う人たちがふえ、漱石や鷗外が教科書から消えるとなると、文学の重みを感じとるのは容易ではない。（中略）／文学は経済学、法律学、医学、工学などと同じように「実学」なのである。社会生活に実際に役立つものなのである。そう考えるべきだ。特に社会問題が、もっぱら人間の精神に起因する現在、文学はもっと「実」の面を強調しなければならない」（荒川洋治『忘れられる過去』2003）
- ▶ サルコジ前大統領の公務員国家試験批判（2009）に対して⇒「ここではね、もし表面のことで万事を判断していたら、あなたはいつも間違っただけなんです。そう見える、というのは決して真実でないといってよろしい」（ラファイエット夫人著、生島遼一訳『クレヴの奥方』1678）

参考・引用文献

39

玉川大学 菊池重雄

- ▶ 荒川洋治（2003）『忘れられる過去』みすず書房
- ▶ 有賀夏紀（2012）『アメリカの20世紀（上）1890～1945』中公新書
- ▶ Barkley, E.F., Cross, K.P. & Major, C.H. （2005）. *Collaborative Learning Techniques: A Handbook for College Faculty*. John Wiley & Sons, Inc
- ▶ Bruffee, K.A. （1995）. Sharing Our Toys: Cooperative Learning Versus Collaborative Learning. *Change*, 27（1）
- ▶ Centre for Educational Research and Innovation （2008）, “*Four Future Scenarios for Higher Education*”
- ▶ フランク・ローズ 著、島内哲朗 訳（2012）『のめり込ませる技術—誰が物語を操るのか』フィルムアート社
- ▶ ヒュー・マクガイア、ブライアン・オレアリ 編、浅野紀予、他 訳（2013）、『マニフェスト 本の未来』ボイジャー
- ▶ 井下 理（2013）「学修環境としてのラーニング・コモンズ」『IDE・現代の高等教育』、556
- ▶ 金子元久（2013）「経営課題としての学修基盤」『IDE・現代の高等教育』、556
- ▶ カレン・ジョイ・ファウラー 著、矢倉尚子 訳（2006）『ジェイン・オースティンの読書会』白水社
- ▶ 加野芳正（2012）「学修支援の現状と課題～誰が何を支援するのか」『IDE・現代の高等教育』、546
- ▶ クレイグ・モド 著、樋口武志、他 訳（2014）『ぼくらの時代の本』ボイジャー

- ▶ Matthews, R.S. (1996) . Collaborative Learning: Creating Knowledge with Students. In R.J. Menges, M. Weimer, & Associates (Eds.) , *Teaching on Solid Ground: Using Scholarship to Improve Practice*. San Francisco: Jossey-Bass
- ▶ OECD教育研究革新センター＝CERI 編著、立田慶裕 監訳（2006）『教育のシナリオー未来思考による新たな学校像（OECD未来の教育改革1）』明石書店
- ▶ 小野島大（2013）『音楽配信はどこへ向かう？』インプレスコミュニケーションズ
- ▶ ラファイエット夫人 著、生島遼一 訳（1976）『クレヴの奥方』岩波書店
- ▶ レイ・ブラッドベリ 著、伊藤典夫 訳（2014）『華氏451度』早川書房
- ▶ 『聖書（新共同訳）』日本聖書協会
- ▶ Smith, K.A. (1996) . Cooperative Learning: Making “group work” Work. In T.E. Sutherland & C.C. Bonwell (Eds.) , *Using Active Learning in College Classes: A Range of Options for Faculty*. New Directions for Teaching and Learning, No. 67. San Francisco: Jossey-Bass
- ▶ “Student Video Contest, Herman Miller 2013 & 2015”
<http://www.hermanmiller.com/solutions/education/pages/student-video-contest/student-video-contest-previous-winners.html>（2015. 7.21閲覧）
- ▶ 歌田明弘（2010）『グーグル、ドコモ、電通、総務省のキーマン12人の証言ー電子書籍は「楽園」か「荒野」か？（仮想報道特別編）』アスキーメディアワークス
- ▶ 安永 悟（2012）『動性を高める授業づくりー協同学習のすすめ』医学書院

連絡先

▶ 菊池重雄 (KIKUCHI, Shigeo)

玉川学園理事 (高等教育担当)

玉川大学経営学部国際経営学科 教授

shig.kik@bus.tamagawa.ac.jp

